

との 「繰り返し」が 調べてくれるもの

南陽市教育委員会教育委員 山岸 俊道

浅学非才を顧みず、促されるままに教育委員を拝命して9ヶ月。これまで20数年、仏教者の日送りをしてきた私が教育行政の如何を知る由もありません。分からぬ事・慣れぬ事ばかり… 右往左往しながら、諸先生方にご迷惑のかからぬよう我が身を慎む毎日です。

『所報』の巻頭言。「学校教育について」とのテーマを頂戴しました。公教育の多くが「寺子屋」に由来していることを考えれば、私にも思いを綴る余地があるのかも知れません。紙面を汚すご無礼、どうぞお許し下さい。

「生き方を身につける場」としての僧院

教員生活に3年程で挫折してしまった私は、とある山奥の僧院に身を委ねました。早朝3時半に起床、夜9時就寝。800年来、その日課は受け嗣がれます。200余名が共同生活を営みますが、余計な会話が許されることはなく、自由に出来る「時間」も「空間」もありません。立ち居振る舞い、箸の上げ下ろし、洗面法、トイレでの用の足し方、更には寝姿まで…微に入り細に入り、1日24時間のほぼ全てにわたり「規矩」が定められています。

私はその僧院で5年間、お世話になりました。やはり最初の1年はその辛さに涙を流すこともありましたが、2年3年と身体が慣れるにつれ、毎日を平然と過ごすことが出来るようになりました。教員時代に患った脂肪肝はいつの間にか完治し、不整脈は整脈となり、片付けられなかった身の回りも無意識のうちに整えられていきました。

今では「おっさまはキレイ好きだねあ…」と冷やかされることも屢々ですが、身の回りのキレイさ如何は私の(心の)バロメーターになっています。

「洋の東西」にかかわらず

その僧院での生活が4年目を過ぎた頃、「東西霊性交流」という海外研修に送り出されます。日本と西洋の僧院が4年に一度「交換留学」を試み、互いの理解を深める目的。約40日間、私はカトリックの修道院で生活をする好縁に与りました。

修道院とてやはりその日課は規則正しく、数百年もの長きにわたり変わらぬ毎日を過ごしています。ただ、そこにいる人はとても人懐っこく、陽気で、しかもよく喋ります。食事とて菜食にはこだわらず、「聖体拝領」の通りワイン

は常の飲み物です。一人ひとりに個室が与えられ、プライベート(私的な空間)は確保されています。日本の僧院に慣れ親しんだ私でもその環境には憧れを覚えました。…が、それは一面的な見方だと間もなく気づかされます。

私達とは違い、彼らは生涯、その僧院で暮らし続けます。神との契りを結び、神に倣った生活を貫く誓い(終生誓願)を立てた彼らです。一生涯かけて「我が生き方」を神に準え、それこそルーチンワークし続けるその日常には、例えばプライベートが夫々に与えられていても、それを上回る「規律正しさ」が課せられていると思えました。

洋の東西にかかわらず、長い時間をかけねば調べられぬものがあります。何事もインスタントが重宝される今の日本では、中々浸透していかぬ考え方なのかも知れません。

「生き方を身につける場」の喪失

古今東西。尊きものとの接し方を身につける過程において、「生き方」のベースが培われることも多かった筈です。(誤解なさらぬように…現在の公教育に「宗教」を取り入れるべき！などと申し上げるつもりは微塵もありません。)

昔から尊きものへの向き合い方は、我が祖父母から繰り返し…繰り返し…丹念に躰けられました。父母はその日の暮らしに奔走しているわけですから、幼児の立ち居振る舞いは祖父母の御教えかと心得ます。しかしながら、3世代同居も今では昔の話。大変、残念なことです。

「知っている」と「している」は似て非なる

グローバル社会と言われ、ワールドワイドが求められ、誰もがインターネットを操る時代。知識と情報は、過去に例を見ぬほどの量が一人ひとりに与えられました。しかし、その知識・情報がその人の行為として現れているかと申せば、それは「?」。通り過ぎて行くものばかりが多くて、その人に擦り込まれるほどの「繰り返し」には成り得ないのが現実です。取捨選択の難しい世の中となりました。

その昔、寺子屋での「読み・書き・算盤」は所謂「ドリル学習」、一辺倒だったのだと思います。現在と比して少ない知識量だったに違いありませんが、紛れもなく子どもの皮肉骨髄と化しました。「やり直し」や「繰り返し」はとても辛い作業ですが、それによってしか「調べられぬもの」「身に付かぬこと」があるのだろう…と覚えてなりません。



「安全・安心なまちづくり関係功労者
内閣総理大臣賞受賞(平成26年10月)」

Akayu 生き方まっすぐ ネットワーク

赤湯生き方まっすぐネットワーク協議会は、平成19年に組織され、今年で10年目を迎えます。子ども達(園児・児童・中高生徒)の健全な成長を願い、「地域懇談会」(7月)とまっすぐミーティング(11月)の2つを柱として、あいさつ運動や防犯パトロールなどに取り組んできました。「防犯活動の枠を超え、次世代のまちづくりを視野に入れた活動の展開」「多くの機関・団体のネットワークの構築による、子どもから高齢者までの幅広い世代の自発的、主体的に防犯活動に取り組む意識の醸成、活動体制の構築」等により、安全・安心なまちづくりに貢献したことが評価されて、平成26年に内閣総理大臣賞をいただきました。これからは子ども達と地域の大人が一体となって、安全・安心なまちづくりを目指していきたいと思ひます。



赤湯小を会場に開催。二十七年年度のテーマは『安全・安心なまちづくり、ネットトラブルから子どもたちを守る』でした。会の冒頭に、南陽高校の生徒から『インターネット依存がもたらす様々な問題点』について、具体的な場面を提示しながら問題提起がありました。

生き方まっすぐ ネットワーク総会



赤湯生き方まっすぐネットワーク協議会では年2回の総会を実施して、1年間の計画確認、実績報告を行っています。昨年度から、中川地区も本格的に本ネットワーク協議会に参加して赤湯中学校区同一歩調で活動を進めています。

今年度の主な活動予定	
不審者対応教室(赤小)	4月23日(土)
不審者対応教室(中小)	5月6日(金)
ネットワーク総会	5月25日(水)
ネットワークだより発行	6月中旬
危険箇所点検(各学区)	6月
まっすぐ見守り隊全体会議	6月下旬
地域懇談会	7月11日(月)
地域安全マップの配付	7月
親子ふれあい週間 (ノーゲーム・ノーテレビデー)	7月23日(土) ~8月9日(火)
ふれあい入浴	7月22日~24日 11月19日~20日
ネットワークだより発行	8月中旬
不審者対応教室(幼保)	10月
まっすぐミーティング ネットワーク事業	11月23日(水)
下校パトロール	2学期
ネットワーク年度末総会	2月中旬
ネットワークだより発行	3月
防犯パトロール(公民館)	通年
見守り隊活動	通年
あいさつ運動	通年



<参会者の声>

年代の異なる人との話し合いは自分自身の視野を広げるといふ経験になりました。コミュニケーションの手段として使う道具に、使われる人間にならないように、早期からの教育(社会・学校・家庭)が大切だと考えます。ネット社会では様々な種類のトラブルがありますが、自分を大切にすることと同じように、他の人も大切にするという考えが大事だと思います。
(地域在住の男性の方から)

まっすぐミーティング



赤湯小・中川小・赤湯中・南陽高校の児童生徒、保護者、教職員、そして、地区長会や各種団体をはじめとした地域の方々、総勢150ほどが一堂に会し、グループに分かれて、『インターネット使用で起きるトラブルを防ぐには』というテーマで、話し合いを行いました。話し合いの内容をもとにして、『ネットトラブル防止標語』を参会者全員が考え、グループや全体で発表しました。作った標語については、カレンダー等を作成し、地域の方にもお知らせしました。

地域懇談会



27年度は、「地域の手で 守ろう 育てよう 未来を担う子ども達」をテーマに、赤湯公民館長の大澤実氏の問題提起を受け、学校・家庭・地域が一体となつたいじめ問題への対応について、地域の方々と幼保小中高の保護者、教職員が集まって話し合いをしました。



あいさつ運動

ネットワーク協議会の各施設や児童・生徒に配付したポケットティッシュ



ネットトラブル防止標語を掲載した本協議会のカレンダー



開館から9か月を迎えて

南陽市文化会館 館長 板垣俊一

はじめに

昨年10月、南陽市文化会館が開館（10/4 開館記念式典開催）してから9か月を迎えました。

この間、10 数回のコンサート等が開催され、いずれも大盛況を博しています。これも市民の皆様はじめ地域の方々、本物に触れたいという気持ちが形となって表れているものだと思います。

文化会館の概要

文化会館は、地元木材を使い全国初となる大型耐火木造の施設です。大ホールは1,403席を有し、「世界最大の木造コンサートホール」としてギネス世界記録認定を受けました。その他500人収容の小ホール、展示ギャラリー、総合工房、和室や会議室など市民の皆様にご利用いただけるスペースも多く設置されています。また、災害の際は避難所としての使用も想定されています。

さらに、一部太陽光発電設備も導入していますが、木質バイオマスボイラーでチップ材



を燃やして館内の冷暖房をまかなっています。全てにおいて木にこだわった施設です。

館内の木育ひろばでは、毎日子供たちが木の温もりに触れています。

総事業費は66.8億円で、うち半分ほどは林野庁から補助金をいただきました。



今後の方向性

今年度も主催事業として10数回のコンサート等を計画しています。既に平原綾香さんのコンサートは終了し、多くの方からおいでいただきました。平原さんご本人も、「音の響きが最高」、またここでコンサートをやりたいと言っていたいきました。

この会館は、「市民活動の拠点」をコンセプトに建設されました。おかげさまで、いろいろな団体から継続してご利用いただいております。現時点では、初期の目的に沿った使い方ができているものと思っておりますが、まだ1年も経過しておらず定着したとは言い難い現状です。

皆様から、いろいろなご意見・ご要望そしてご叱責をいただきながら、今後の方向性を明確にしていきたいと思っています。時節柄、ご自愛のほどお祈り申しあげまして拙稿といたします。

【編集後記】

子供の貧困が話題に上ることが多くなった。事実、収入が生活保護基準に満たない貧困世帯数は、1997年～2012年の15年で466万世帯(10.1%)から986万世帯(18.3%)に倍増している。この間街頭してきた1996年の構造改革を端緒とするネオリベリズムは、大きくならないパイの奪い合いによる富の偏在を増長しただけで、期待された低成長の打開を成し遂げていない。人口減や世界情勢を鑑みれば、経済に拡大の余地など幾らも残っていないことは明白で、このまま続けても貧困層が増えるだけだろう。それなら、公的セーフティーネットで救済をといっても、財政難と自己責任論を慮ってか生活保護受給率は2割にさえ満たない(2012年15.5%)。

そろそろ、パイを奪い合う世界からパイを分かち合う世界に切り替えるべき時なのだ。互いに助け合うことで敗者を出さないだれもが希望が持てる社会をつくるために、相互扶助の精神、出来る人が出来ない人の分をカバーする人間関係を構築しなければならない。地域とつながり中学生としての役割を果たすことは、未来の担い手である彼らに、自分のできることで共同体に貢献するという相互扶助の意識を育てる。地域総合型教育の意義の一つがそこにある。

今号から、地域総合型教育の中核をなす「ネットワーク事業」について、中学校区毎の取り組みを3号に渡って紹介する。ぜひご覧いただきたい。

(安藤 淳)

【情報センター員】

- | | | | |
|---------------|----------------|---------------|---------------|
| ◎安藤 淳 (沖郷中学校) | ○佐藤 法子 (中川小学校) | | |
| 鈴木 誠 (沖郷小学校) | 佐藤 裕介 (梨郷小学校) | 細矢 恭平 (赤湯小学校) | 網代 良一 (中川小学校) |
| 高橋 利幸 (宮内小学校) | 加川 雅人 (漆山小学校) | 土屋 一雄 (沖郷中学校) | 遠藤 隆平 (赤湯中学校) |
| 高橋 良行 (宮内中学校) | 矢野 斉 (南陽市教委) | | |